

週日の説教

金 大烈 神父 2010年5月21日(金)

《あなたの全存在を愛します》

皆様、アメリカの大統領だったフランクリン・ルーズベルトをご存知ですよ。彼は32代目の大統領でした。一つの逸話がありますので紹介します。

彼は歳をとってから関節が弱くなって、車椅子で生活する事になります。大統領生活の終わり頃は、ほとんど立ってはいなかったのですよ。いつも車椅子を使っていたのです。ご存知でしょう。

ある日、自分の仕事を終えて、奥さんと一緒に食事をする時に、ぼんやり奥さんの顔を見ながらこのように一言投げかけます。「あなたは私の足がだめになっても、私のことを愛しているの?」と。これに対して奥さんは、どのように答えたと思いますか。彼女は「私は、あなたの足を愛したのではなく、あなたを愛して来ましたよ。」と簡単に答えたそうです。

今日の福音は(ヨハネ 21・15~19)何回も読んだ箇所ですが、「イエス様が、何故三回も同じ質問をペトロになさったのか」と、それを黙想してみました。そしてルーズベルト大統領の逸話が思い浮かんだわけです。

私達は何かを愛しています。誰の何を愛しているのでしょうか。いつも「私はあなたを愛しています。」と言いながらも、大体その条件に縛られていることが多いのです。「あの人を何故好きなの?」と聞かれたら「あの方は自分の気に合います。」とか、色々な話を耳にしますが、結局やさしく言いますと、その条件が好きになってしまう場合がほとんどだと思います。

ですからこの世の中、特にこの時代は、条件の魅力にその人を好きになって、その魅力のためにその人と結婚したのに、それがために別れてしまう場合が結構あります。そうでしょう。例えば「この人はお金を沢山持っている、この人と結婚すれば経済的な心配はないし、自分の未来が安定されるでしょう。」このように、相手の経済力を考えてしまいます。その条件を考えない人は誰もいないと思います。それで親とか年上の方々は、子供達を結婚させる時に、条件が合わなかったら「不幸になるよ」とよく言うのです。

イエス様はこのような考えかたをよくご存知だったと思います。ですからペトロに「あなたは私の何を愛しているのか」「そんなに気軽に“私はあなたを愛していますよ”と言えることではない。」「慎重に考えて話さなくてはならない。」とおっしゃりたかったのではないのでしょうか。

ペトロはイエス様に、三度目「わたしを愛するか」と聞かれた時に色々考えたのでしょう。「この方は私に何の質問をなさっているのか。」三度目には悲しくなってペトロは言います。「何でも分かっていらっしゃるあなたは『私があなたを愛していることを』ご存知だと分かっています。」と。その後イエス様は彼の未来の事を言います。ペトロの愛の告白の次に、ペトロがどの様に死んでしまうかについておっしゃっているのです。ですから“愛とは命がけ、命さえも捧げなかったらそれは愛とは言え

ない”というイエス様の言葉、心じゃないかと思ってみました。

結局 “愛とはその相手自体を愛さなければならない” ことです。条件付になってしまうと必ず失敗してしまう。皆様は「何故、イエス様を愛している」のでしょうか。全知全能の神様だから、御父の子だから、救いのために、そういう条件のために実際に信仰が始まるかも知れません。しかし、それはいつか終わってしまう心の流れです。本当にイエス様が望んでいるのは、あなたはわたしを愛していると言うけれども私の何を愛しているのか、“あなたの全存在を愛しています” という告白がなかったら、真の愛のつながりは出来ないことを今日の福音を通しておっしゃっているのではないかと思います。

さあ、キリスト教では愛ですが、仏教では慈悲といいますよね。この言葉の差は何でしょうか。これもちょっと考えてみました。「慈悲と愛の差はなんだろう。」どのようなニュアンスの違いがあるのかと、自分なりに、自分勝手にちょっと申し上げます。慈悲は相手が気の毒にみえるとか、よくない事に陥っている時に、自分が憐憫の心で使う言葉です。ですから、どうにか救いを求める人に手を伸ばす、施す時に使う言葉ではないかと思えます。しかし、愛、イエス様がおっしゃった愛はそういうものではありません。見下ろすような慈しみではありません。それは “相手の存在そのままを受け取る” ことです。慈悲には上から下に流れる感じですが、立場関係なしに人間を動かす力は愛のほうが強いのではないかと思います。なぜなら、かわいそうで、気の毒で自分の命を投げ出す事はほとんどないでしょう。どうにか助けようとしたけれども、失敗したら、しょうがないと思ってしまうのが慈悲ではないでしょうか。しかし、愛というものは、救わなければと思ったら、その人のために自分を忘れてしまうことです。ですから男女の愛も、本当に完璧な愛と言えるのは自分のことは見えなくなることです。“相手が幸せになれば私は幸い。幸せ” という告白出来るのが、本物の愛ではないでしょうか。

このように考えると、私達が歩まなければならない道は遠いですね。完璧な愛の姿をみせて下さったのはやっぱりイエス様でしょう。イエス様は愛の意味について証明されたと思います。

私達が「イエス様、あなたを愛します。」と言う時に、色々な事を全部捨てて “あなた自体を、あなたの全てのことを愛します” という告白が、震える心で出来る様に求めなければならないと思います。愛は絶対頭ではありません。これは確かなことです。頭ではなくこの胸です。

ありがとうございました。